

# 秋の研究発表会の振り返り

## 第3学年社会科「畑ではたらく人びとの仕事」

授業者 田中 伸一

### 本時の主張点

自分たちのハクサイ作りと太田先生のハクサイ作りを比べさせることで、違いを見つけ、太田先生のハクサイ作りに対する工夫や努力、思いにせまっていくな姿につながるだろう。

### 1. 授業づくりの「しかけ」と子どもの自己調整

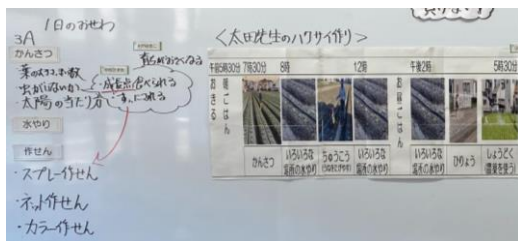
#### 本時における授業づくりの「しかけ」

本時におけるしかけは、自分たちのハクサイ作りと太田先生のハクサイ作りを比べる場面を作る。

自分たちのハクサイ作りと太田先生（農家であり、3Aの野菜先生として1学期より栽培活動に関わってもらっている）のハクサイ作りを比べることにより、太田先生のハクサイ作りにおける工夫や努力を知り、「自分たちと違うことをしているのはどうしてだろう?」という子どもたちの気づきを引き出すことにより、太田先生の思いにせまっていくな探究的な姿がみられるのではないかと考えた。

### 2. 本時より

#### <自分たちと太田先生のハクサイ作りを比べて>



まずは、自分たちのハクサイ作りについて体験をもとに話し合った。その後、太田先生の1日（資料）を掲示した。自分たちのハクサイ作りと太田先生のハクサイ作りを比べて、感じたことを話し合った。

3Aの5人からは、太田先生は、たくさんのお話を聞けるので、毎日お話を聞きたいと思いました。子供達も、お話を聞けるので、毎日お話を聞きたいと思いました。子供達も、お話を聞けるので、毎日お話を聞きたいと思いました。

- 1日中お話ししている
- 広い畑で育てている
- 色々な場所で水やりをする (3回)
- 大変!

朝早くからお話しする  
• 色々な作業がある (肥料をあげる、消毒をするなど)  
• 毎日水やりをしている  
→大変!

毎日長い時間を使ってお世話をしてすごい。体育館7個分のハクサイを2人で1つ1つ大事にお世話しているから。

- 毎日朝からお話ししている
- 2人で体育館7個分
- すごい!

子どもたちは自分たちと「比べる」ことにより、太田先生のハクサイ作りにおける工夫や努力に気づいた。自分たちがハクサイ作りをしているからこそ、人一倍太田先生に対して「すごく大変!」「太田先生すごい!」という思いを感じた。この思いを引き出し、「どうしてこんな大変なことができるの?太田先生はどんな思いでハクサイ作りをしているの?」という学習問題を子どもたちと設定した。自分たちのハクサイ作りでの体験を生かしながら、農家である太田先生の思いを考えた。

#### <太田先生のハクサイ作りに対する思い>

わたしが、こんなに一生けんめいハクサイを作るのは、みんなに食べてもらって、「美味しい」って喜んで欲しい。

- みんなに食べてもらって、「美味しい」って喜んで欲しい。

わたしが、こんなに一生けんめいハクサイを作るのは、みんなに美味しいと言ってもらって、ありがとう。みんながハクサイを食べてくれるのは、嬉しい。みんながハクサイを食べてくれるのは、嬉しい。みんながハクサイを食べてくれるのは、嬉しい。

- 他の人に美味いって言ってほしい。
- 頑張ったから
- 野菜が好きだから、美味しく作りたい

わたしが、こんなに一生けんめいハクサイを作るのは、みんなに食べてくれる人においしい野菜を食べてもらうように、みんなの命を大切にしたい。

- 食べてくれる人に「美味しい。」や「甘かった!」など喜んでほしいから
- ハクサイの命を預かっていて、その命を大切にしたいから

#### <ふりかえり>

朝から一生懸命やっているのを見て、「美味しい」って言ってもらえるハクサイの命を育てる覚悟があるんだ。

野菜が子どももってこそ、「絶対美味しい野菜を作ろぞ」って言う気持ちでいっぱい。

毎日長い時間を使ってお世話をしてすごい。体育館7個分のハクサイを2人で1つ1つ大事にお世話しているから。

### 3. まとめ

授業全体を通して、子どもたちは自分たちの栽培体験を生かして、自分たちのハクサイ作りと太田先生のハクサイ作りとの違いを比べながら、「太田先生の工夫や努力、思い」にせまることができた。今後に向けての課題は、社会科としての知識の部分の不足を感じたところである。本時では、太田先生のハクサイ作りに対する思いにせまることを目標としていた。そのために、消費者の視点を十分膨らませる時間を確保することができなかった。生産者である農家は、消費者である私たちの願いにも応えようとしているからである。この点は次時において、消費者の視点を取り入れながら、更に地域の生産者である農家の思いにせまっていきたいと考えている。